

重点目標評価シート I

<p>基本方針 I</p>	<p>府立図書館は、市町村立図書館を支援し、大阪府全域の図書館サービスを一層充実させます。</p>															
<p>現状と課題</p>	<p>市町村立図書館に対する協力貸出やレファレンス、研修等による支援のみならず、府域図書館の情報集約と提供にも努めてきた。しかし、図書館運営の多様化、図書館職員の非正規化が進む中、府域図書館間の連携や、業務に関するノウハウを維持・向上させるためには、より積極的に図書館間で情報を共有し、連携することが必要である。また、近年頻発する自然災害が発生した際の危機管理対応や迅速な情報共有のためにも、連携の強化、情報インフラの整備が求められる。 第三期まで、インターネットを活用した情報収集・発信は「大阪府内図書館員のページ」と「大阪府内図書館メーリングリスト」を中心におこなってきたが、日常的な連絡の効率化や、分館も含めた迅速な情報共有といった双方向のコミュニケーションには課題が残る。情報技術がますます進展する中、第四期では従来のツールによる運用を継続しつつ、電子掲示板など新たなコミュニケーションツールを活用し、府域図書館間ネットワーク機能の強化・充実を図っていく必要がある。</p>															
<p>重点目標</p>	<p>府域図書館間情報ネットワークの機能強化</p>				<p>成果指標と数値目標 電子掲示板など新たなコミュニケーションツールの運用</p>											
<p>取組内容</p>	<p>令和元(2019)年度 上半期</p>		<p>下半期</p>		<p>令和2(2020)年度 上半期</p>		<p>下半期</p>		<p>令和3(2021)年度 上半期</p>		<p>下半期</p>		<p>令和4(2022)年度 上半期</p>		<p>下半期</p>	
<p>情報ネットワークの機能強化</p>	<p>試行機能の選定 試行準備 他府県における情報ネットワークの状況および活用事例調査 試行運用 他府県の事例調査をふまえた情報ネットワークのあり方検討 試行検証および運用見直し 本格実施準備 本格実施 効果検証(府域図書館への調査・分析) 運用の見直し・改善</p>															
<p>評価</p>	<p>令和元(2019)年度</p>		<p>令和2(2020)年度</p>		<p>令和3(2021)年度</p>		<p>令和4(2022)年度</p>									
<p>図書館の自己評価</p>	<p>試行機能の選定にあたり、スケジュール登録、アンケート、安否確認等、既存機能の確認やテストを行うとともに、選定の参考とするため、グループウェアの導入や掲示板等による情報連携をしている他県立図書館での事例調査を行った。それらを踏まえてインターネット経由による運用テストを実施し、試行運用内容について令和2年度上半期には具体化できる目途をつけた。</p>		<p>府域図書館における作業の効率化とネットワーク機能強化を図るべく、定型文書の作成やアンケート等に用いる機能を中心にグループウェアの試行運用を7月から開始した。その後、利用状況や改善点等についてアンケートを実施したほか府域図書館と個別に意見を交換して試行内容を検証するとともに、ショートメールや掲示板機能の活用など府域図書館間のコミュニケーションに有効な運用方法を検討し、本格実施に向けた準備をすすめた。</p>													
<p>協議会意見(外部評価)</p>	<p>年度内にグループウェアの試行運用を開始する段階には至らなかったものの、準備段階までは完了したとのことで、一定程度、評価できる。グループウェアと別に運用している府域図書館を対象とするメールニュースについて新型コロナウイルス感染症拡大下で情報提供手段として役立ったと評価されており、グループウェアも同様に府域図書館間のコミュニケーションがより必要な現状において役立つものであると考えられる。令和2年度にはそのような見地も持って試行運用を重ねてほしい。</p>															

重点目標評価シートⅡ

基本方針Ⅱ	府立図書館は、幅広い資料の収集・保存に努め、すべての府民が正確な情報・知識を得られるようサポートします。							
現状と課題	資料費の効率的な執行と、寄贈資料の適切な受入により蔵書構築を行い、また大阪府域における保存図書館としての役割を果たすため、保存資料を精査し収蔵スペースを確保する取組を、今後も継続して進めていく。所蔵資料の一層の活用を図って、テーマ毎の資料展示や、Web上での資料紹介などの情報提供に努めてきたが、貸出冊数が漸減していることは課題である。ますます進展するデジタル環境のもと、商用データベースや電子媒体資料とともに、所蔵資料をより多くの府民へ、効果的に提供する方法を模索し、提示することが必要である。							
重点目標	重点目標項目				成果指標と数値目標			
	効果的な蔵書の構築				商用データベースや電子媒体資料と紙媒体資料の効果的な提供方法の提案			
取組内容	令和元(2019)年度		令和2(2020)年度		令和3(2021)年度		令和4(2022)年度	
効果的な蔵書の構築	上半期 調査検討チームの編成、文献調査、方向性検討	下半期 調査開始:学識経験者から意見聴取、先行館の見学・聞き取り、簡易報告まとめ、館内意見聴取	上半期 アンケート、データ抽出等、客観的データ収集方法の検討、府内市町村立図書館との連携の検討	下半期 市町村との合同調査チームの結成、調査準備(内容と項目の精査)	上半期 合同調査開始	下半期 調査結果の集約調査報告書案の作成	上半期 報告書案に対する館内、関係者、学識経験者の意見聴取、追加調査	下半期 調査報告書完成細部の精査、公表
評価	令和元(2019)年度		令和2(2020)年度		令和3(2021)年度		令和4(2022)年度	
図書館の自己評価	中央、中之島両館職員による、「紙・電子媒体資料統合提供調査チーム」を立ち上げ、ウェブスケールディスカバリー(図書館が提供するあらゆる情報資源をまとめて一元的に検索できるようにするサービス)、電子書籍、電子ジャーナル等について情報収集を行った(会議開催4回、セミナーへの参加7回、有識者への聞き取り2回、訪問調査3回、アンケート調査2回)。調査結果は「中間報告」※としてまとめ、館内の意見を聴取した。(※別紙「概要版」参照)		感染拡大防止にもなると電子書籍貸出サービスが注目を集めたことを受け、府内市町村立図書館との合同調査として「電子書籍貸出サービスに関する情報収集会」を実施。オンライン動画配信の形式で16自治体20館からの参加を得て、4つのベンダーから聞き取り調査を行った。また、元年度にまとめた「中間報告」の方針に沿って情報収集を行った。(会議開催 2回、セミナーへの参加 11回、府内図書館との合同調査 1回、他館への訪問・オンライン会議等による聞き取り 4回見込み)					
協議会意見(外部評価)	公共図書館における紙・電子媒体資料の統合提供は前例の少ない、最先端の課題であるが、取り組みの端緒として本年度の調査は高く評価できるものである。							

重点目標評価シートⅣ

基本方針Ⅳ	府立図書館は、大阪の歴史と知の蓄積を確実に未来に伝えます。															
現状と課題	府立図書館が蓄積してきた大阪に関する資料を活用し、調査相談に加え、資料展示や講演会といったイベントを通じて大阪の歴史や文化に関する情報発信に努めている。その一方で、インターネットを通じて提供される情報はますます増大し、府内市町村立図書館や国立国会図書館、その他の機関等においても、大阪に関する有用な情報が多数公開されるようになってきている。平成30年度に構築した「おおさかポータル」は、当館所蔵資料のみならず、こうした外部機関提供の情報も含めて、大阪に関する確かな情報をより広く、深く、より効率的に利用者に提供することをコンセプトとしている。さまざまな機関とのデータ連携を広げ、多様なデータを結びつけることにより、データベースの質と利便性をともに向上させ、情報社会の進展とともにますます高度化する利用者ニーズに応えていきたいと考えている。															
重点目標	重点目標項目				成果指標と数値目標											
	市町村立図書館、大学、研究機関等とのデータベース連携の拡充				連携先数【4年間で10機関】											
取組内容	令和元(2019)年度 上半期		令和元(2019)年度 下半期		令和2(2020)年度 上半期		令和2(2020)年度 下半期		令和3(2021)年度 上半期		令和3(2021)年度 下半期		令和4(2022)年度 上半期		令和4(2022)年度 下半期	
「おおさかポータル」の充実	連携先との折衝、データ調整、システムへの反映		連携先との折衝、データ調整、システムへの反映		連携先との折衝、データ調整、システムへの反映		連携先との折衝、データ調整、システムへの反映		連携先との折衝、データ調整、システムへの反映		連携先との折衝、データ調整、システムへの反映		連携先との折衝、データ調整、システムへの反映		連携先との折衝、データ調整、システムへの反映	
評価	令和元(2019)年度				令和2(2020)年度				令和3(2021)年度				令和4(2022)年度			
図書館の自己評価	10月に大阪市提供のオープンデータ約110件を取り込むなど、年度末までに自館作成データを加え3,118件の追加・更新を行った。大阪観光局、国立国会図書館提供データとの連携を令和2年度上半期中に実現できるよう作業するとともに、市町村立図書館についても、いくつかの館と調整を進める準備をした。あわせて、外部機関からのデータ登録を容易にするため、中央図書館と調整しながら、管理機能の改修に取り組んだ。				自館データの作成を着実に進め、年度末までに約3,000件の追加・更新を行う予定である。大阪観光局、国立国会図書館提供データの公開画面への反映が当初予定より遅れているが、年度内に実施予定。大阪公共図書館協会での研究グループ活動を通じ、市町村立図書館にシステムの紹介とデータ提供に向けた呼びかけを行った。管理機能の改修整備は、中央図書館との調整により、当初計画よりも前倒しで進捗している。											
協議会意見(外部評価)	連携が拡大している点、外部機関からのデータ登録を容易とする改修に取り組んでいる点等、評価できる。新型コロナウイルス感染症拡大下で直接来館できない利用者や、所属機関の図書館を利用できない学生等にとって、「おおさかポータル」によりオンラインで情報を発見・入手できることの意義は大きい。令和2年度以降も一層力を入れて取り組んでいただきたい。															

重点目標評価シート V

<p>基本方針 V</p>	<p>府立図書館は、府民に開かれた図書館として、地域の魅力に出会う「場」と機会を提供します。</p>							
<p>現状と課題</p>	<p>府民が公立図書館に求めるニーズの変化や公立図書館における指定管理者制度の導入、業務委託の拡大など運営の多様化により、府立図書館を取り巻く状況は引き続き変化している。そこで、府立図書館は、未利用者層も気軽に利用できるよう、第三期から取り組んできた図書館の枠を超えた外部機関との連携等により、地域の魅力に出会い、賑わいづくりに貢献できる、府民に開かれた図書館として広く親しまれるよう一層努める必要がある。</p>							
<p>重点目標</p>	<p>重点目標項目</p>				<p>成果指標と数値目標</p>			
	<p>≪5-1 中央図書館≫ 生涯学習事業における外部機関等との連携(展示・イベント等の企画実施)</p>				<p>参加者満足度 80%以上</p>			
<p>≪5-2 中之島図書館≫ 指定管理者との共同企画</p>				<p>参加者満足度 80%以上</p>				
<p>取組内容</p>	<p>令和元(2019)年度</p>		<p>令和2(2020)年度</p>		<p>令和3(2021)年度</p>		<p>令和4(2022)年度</p>	
	<p>上半期</p>	<p>下半期</p>	<p>上半期</p>	<p>下半期</p>	<p>上半期</p>	<p>下半期</p>	<p>上半期</p>	<p>下半期</p>
<p>≪5-1 中央図書館≫ 外部機関等との連携</p>								
<p>≪5-2 中之島図書館≫ 指定管理者との共同企画</p>								
<p>評価</p>	<p>令和元(2019)年度</p>		<p>令和2(2020)年度</p>		<p>令和3(2021)年度</p>		<p>令和4(2022)年度</p>	
<p>図書館の 自己評価</p>	<p>5-1:生涯学習事業における外部機関等との連携イベントは、2月以降新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止を余儀なくされたものの、年間を通して49回実施、生涯学習事業全体参加者数は3,600人、その参加者満足度は88%となり目標値を上回った。 5-2:特別展では、1回目は江戸期の医学書、2回目は大阪の浮世絵師というテーマで資料を展示し、いずれも来場者は5000人を超え、満足度は平均96%。ビジネス講座や古文書講座などは、のべ308人の参加を得て、満足度は92%と目標値を上回った。</p>		<p>5-1:生涯学習事業における外部機関等との連携イベントは、感染拡大防止に留意し、中止や規模を縮小、或いはweb開催への移行などの対応を行い12月末までに16回実施。生涯学習事業全体参加者数は564人と昨年度を下回っているが、参加者満足度は84%と目標値を上回った。 5-2:指定管理者との共同企画については、感染拡大防止に留意し、中止や定員の縮小などの対応を行っている。特別展では、70年万博関連資料を展示し、来場者は2,078人、満足度は87%。ビジネス講座や古文書講座などは、のべ143人の参加を得て、満足度は88%と目標値を上回った。</p>					
<p>協議会意見 (外部評価)</p>	<p>いずれも多くの参加者を得て、参加者満足度も目標値を大きく上回っており、高く評価できる。しかし令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大下でイベント実施のあり方を見直す必要がある。感染拡大の中でどのように「場」としての図書館を実現していくのか、模索と検証の年として位置づけて活動いただきたい。</p>							